

## ■■■ 岩手の復興とまちづくり①【宮古、岩泉】 記録+評価 ■■■

■趣 旨：東日本大震災の宮古市の復興地区と2016年の台風10号被害にあった岩泉町の被災地を見るとともに、観光も含めた地方都市のまちづくりについて考える。

■行 程：2018年7月28日(土)～7月29日(日)

【7/28】宮古駅⇒宮古市中心部⇒鍬ヶ崎・光岸地区⇒浄土ヶ浜⇒宮古駅⇒岩泉小本駅⇒岩泉⇒安家地区(嘉村旅館に宿泊)

【7/29】安家地区⇒龍泉洞⇒純木家具⇒うれいら商店街⇒盛岡駅

■参加者：安藤 文、磯田 尚子、大竹 亮、梶川 義美、加藤 仁美、鈴木 丞治、藤井 幹也、水谷 晴子、溝辺 正浩、谷貝 等、谷貝 葉月、横田 宣明

■コーディネーター：原 久子、栗原 徹

### 0. JR山田線(盛岡～宮古)

- JR山田線には初めて乗りましたが、宮古までの距離が長く沿線に集落も少ないので、集客に厳しさが感じられました。車両はモダンだし新幹線乗り継ぎや県庁所在地の交通ネットワークの一環なので、活性化してほしいところですが……。帰路の岩泉から盛岡への直行バスを利用してみると、道路改良が進むとバスの方が便利で快適になるようです(車両も新しく、道の駅も利用できる)。鉄道では、むしろ三陸鉄道の方が地元密着の様々な工夫が感じられて(単なる交通手段でなく地域づくりの一環として)、将来性があるように見えました。
- なかなか味のある木のテーブルが好印象、ディーゼルの割に音静か。盛岡～宮古間の乗車時間を新幹線(東京～盛岡)以下にしてほしい
- 盛岡駅から発車するので来訪者には利便性がよい。乗車時間はバスより短い、本数が少ないのが欠点。車窓からの眺めや地域資源をプロットした沿線マップがあるといい。
- 盛岡から宮古まで、のどかに走るローカル線だが、ほとんどが山間部なので維持管理は大変そう。
- 高い山々と深い谷の川の景色が美しく、長い時間乗っていても飽きなかった。
- 岩手の広さを実感しました。また、上っている時間が長い事にも驚きました。
- JR山田線の盛岡～宮古間の直通行は、1日4往復で都市間交通としての機能を十分果たしていない。国道を走る106急行バスはほぼ1時間ごとに1日18往復走っており、都市間の移動はバスが中心となっている。
- ほぼ同じルートのバスを利用しました。山あいを通る、眺めの良い道ですが、山間で孤立する集落のために江戸時代に岩山を切り開いて作られたとのこと。今なおトンネル整備が進められ、重要性の高さを感じる。
- 運行本数が少なく待ち時間が長かったので、バス酔いに耐えて岩手県北バスを利用したが、鉄道に乗りたかった。
- 山田線のこの区間に乗ったのは、1979年以来です。駅や列車が少なくなった一方、高速道路の整備が進んでおり、ますます寂れそうなきがした。しかし、景色は上々！

### 1. 宮古

#### ① 宮古市中心部

- 祭りや音楽イベントが開催されていて、街に活気があった。石倉をリノベーションした施設がよい。中央の通りに大漁旗が掲げられ漁港の街をイメージさせていた。津波到達点の石碑が置かれている。浸水範囲表示があるとよい。
- シャッター街となっている地方都市が多いなか、電気屋、洋品店、布団屋等の店までも健在で、静かだけれども賑わいが感じられた。
- 特に賑やかな商店街があるわけではないが、空地や空店舗が少なく、さびれた感じが少ない。結構住みやすいのではないかな。
- 中心商店街の人通りは多くないが、空き店舗がほとんど無く、地方都市としては頑張っている。



- イベント開催日だったこともあるでしょうが、なかなか賑わっていました。従来の店舗に加え、地元の食材を生かしたようなお店が多く、本来の地産地消が根付いている地域と感じました。
- 反映した状況が漂っていました。また、この町に戻ろうとする力があるように感じました。以前いた方が、頑張っていて盛り立てようという気概と新しい店が出来ていた点から感じられました。
- イベント中であつたので、普段の様子は分からないが、中心商店街は密度が高く、魅力的なお店もあり、活気があつたように思える。
- お祭り中でもあり、港町の風情と元気を取り戻していた
- 活気があり、通行人との距離も適当
- 個人商店が多かったが賑わいがあつた。昭和の懐かしい感じがした。
- 2012年に訪問したが、その時に比べ大夫賑わいが戻ってきている
- お祭りの日だったので、賑わっている感はあつた。普段見かけないお盆の用品が珍しかった。

## ② 鍛ヶ崎・光岸地地区（震災復興地区）

- 漁業を生業としている地区が、漁業の町として復興できて良かったと思う。ラウンドアバウトは、宮古と浄土ヶ浜を結ぶ交通路から外れた位置にあり交通量は少ない交差点で、良いアイデアだと思う。
- 幾度となく高波等の被害を受けては再興した町であるが、今回の区画整理と防波堤整備により環境が大きく変化したのは確か。以前のように人が住まうには、加工業等の新たな産業を興したりしないと難しいのではないかな。
- 東北の被災地に入ると同様に感じる事が多いですが、ハード（インフラ）とソフト、それぞれの復興のバランスを取っていく難しさを感じます。ハードの整備が先行するのは当然ですが、それを追う形でソフト面も住民任せない何らかのアシストが必要だと思えます。区画整理された街区に早く人々が戻って来るといいのですが。
- 東日本大震災の津波浸水域を対象に、保留地の無い減価補償地区の区画整理事業を行っている。海側から産業系、商業系が幹線道路沿道に带状に広がり、山側に住居系の土地利用計画が計画されている。信号のないラウンドアバウトが建設されていた。規模は小さく、静岡県白糸の滝に建設されていたものと同じくらいの規模で、大規模なものは我が国では難しいのかと思った。隣接して街区公園と公民館があり、植栽や花壇ができれば街の美観形成に貢献する。現状、交通標識が過剰に設置されている。海岸沿いには高さ10mの幅の狭いプレキャストの防潮堤が建設され海を隔てる壁となっている。この防潮堤を過信することなく、津波災害への心構えを保持していくことが大切だと思う。
- コンクリート垂直壁の堤防に開けられた小さな長四角の窓を除いて、海岸付近から海を眺めることができなくなるのは、寂しいのではないかなと思う。別の津波被災地で、海が見近な人は早期に避難したが、高層ビルに遮ぎられて海を遠くに感じている人はすぐには避難しなかったと聞いたことがある。海の脅威も豊かさも身近であるような仕組みがほしい。
- 自分がもし海のすぐそばだった町で住んでいて、新しく高い塀に囲まれたらそこに戻るか？という点で戻り難いかと思います。海の人の結束や仲間があるから住み続ける事ができると思います。
- 復興が進みつつあることが実感できました。しかし、公共施設は整備されても宅地には空き地が多く、高い堤防も整備されるのでは、従来の活気が戻るのか心配でもあります。
- 整備はされましたが、人工的かつ機能優先で、まだ住民がもどっていないためかまばらで活気がない感じです。小川の沿岸も並木が植樹できるようなスペースの計画がほしかった。今後は樹木が育つ、人々の思いなどヒューマンな視点での街おこしに期待します。
- 震災復興事業による道路整備がほぼ完成し、建物も建ちはじめてきた。本来の意味での街の復興はこれから。
- 住宅地の一角で漁師さん達が総出で延縄漁の網を手入れをしていた。漁業活動が復活していてよかったなあとと思った。
- 高い堤防が印象に残った。ぜひ産業が復興してほしい。



- 高い堤防が、中世の擁壁のようでちょっと異様な感じ、ラウンドアバウト式交差点は日本では珍しかった
- どこまで戻るのか、見守るしかない。

### ③ 浄土ヶ浜

- 浄土ヶ浜の名にふさわしく、とても美しい穏やかな海岸でした。訪れることができて良かったです。今回歩いた途中にはいくつか体験観光資源の可能性が見られたので、宮古駅から片道は歩いていくコースが設定できるといいと思いました。
- ビジターセンターと遊歩道が整備されていて、そこへの駅からのバスのアクセスも良く、地区内で無料巡回バスの運行など観光地として使いやすく整備されている。
- 浄土ヶ浜ビジターセンターがキレイになっていてびっくりした。浄土ヶ浜まで歩きやすく、(乗車はしなかったけど)無料バスでビジターセンターまで戻れるのが良いと思った。
- 変な添加物の無い本物の景勝地ですね。地の利が悪いのか、景勝地にしては、人が少なくてその分ゆっくり味わえる感じがする。
- 白い岩山と清らかで静かな海の取り合わせは、やはり浄土の名にふさわしい。遊歩道もしっかりとしていて歩きやすかった。
- 「浄土」という名前に相応しく、美しく幻想的な景観。ここに来た観光客が、宮古の街中でも楽しめるといい。
- 海辺を歩くことができたのが気持ちよかった。砂浜と波、岩場の景観が良かった。
- 初めて訪れたが、白く尖った岩が独特な雰囲気を醸し出している。とても良い印象！
- 独特の景観、観光資源となっている
- 豊かな自然を満喫できる。観光地として優れている。景観に配慮して施設が整備されていて利用しやすい。
- 白亜の奇岩とトルコブルーの透明な海が美しかった。水浴を制限
- 二回目の訪問だったが、もっと浜が広がったような気がする。しない自由も羨ましい。



## 2. 岩泉中心部

### ① 龍泉洞

- 規模が大きく、洞内に高低差があり、訪ねて楽しい。施設が整備され、周囲の景観に配慮した建物なので、観光地として優れている。
- 坑道が狭く、長い階段で天井近くまで登れるので、鳥目・近眼でも鍾乳洞を間近に見ることができた。また、3つの地底湖の透明で冷たそうな水色はいつまでも見飽きなかった。
- 奥深い洞窟に底知れぬ地底湖が横たわる神秘の空間でした。どうして出来たのか不思議なので、入り口付近には土産物屋だけでなく、資料館もあるといいと思います。
- 岩泉町唯一の観光拠点。観光バスも来るし盛岡から来る基幹の路線バスも入って来る為にそれなりに賑わっている。鍾乳洞、レストラン、観光案内所、みやげ物店、休憩所、駐車場と一通り揃っているため観光地としては及第点。ただ町の施設としては宮古（浄土ヶ浜）と異なりピンポイントとなっていて広がりはない。
- 鍾乳洞の複雑な形状と青く透明な水が神秘的。龍泉洞自体は非常に素晴らしいが、観光地としては周辺施設がもう少し充実するといい。
- 観光資源であるが、滞在時間や消費を作り出す受け皿が乏しい、今後広場などを活用したいところ、また観光だけではなく、住民にとっても利用できる場としたいところ。観光地が龍泉洞という点だけになっている、線としての広がりができるようしかけがほしい。
- 観光地としてきれいに整備されすぎてしまったような気がする。鍾乳洞はもう少し探検気分があると楽しい。
- キレイに整備されすぎて面白くない
- こちらも本当にきれいな水と空間でした。
- 見どころは3つある地底湖。どれも澄み切って深く、吸い込まれそうで怖い。
- 入ってからすぐは、閉塞感でちょっと怖かった。澄んだエメラルドブルーが美しかった。
- 地底湖が圧巻！、昔より歩きやすくなった
- 1979年に訪れた際は、もっと深かったような気がする。多分、入口がもっと上だったのだと思う。しかし、地底湖の美しさは変わらなかった。

### ② 龍泉洞から うれいら商店街までの道

- 龍泉洞の湧水が流れる清流と木々の緑が作り出す景色はとても穏やかで美しかった。お話を伺った純木家具では、この川を愛しながらも時として大きな被害をこうむる、この地で生活することの厳しさを教えていただいた。社訓にあるように長く続けてほしい。
- 龍泉洞から岩泉中学校下までは、ブナ、ミズナラ林の中を清水川に沿った遊歩道が整備され、川の淵や岩を眺めながら楽しく歩ける。岩泉中学校下からは視界が開け、整備されていないので歩きづらいが、岩泉養魚場から下は里山や畑が河岸段丘に広がり、河畔の岩泉純木家具工場、岩泉の街へつながる散歩道である。
- 水辺が清らかであり、親水散策路としてまちへ続く遊歩道として整備したいところ。龍泉洞にパーキングへの商店街からのピストン輸送がほしい。
- 整備しすぎない自然な雰囲気遊歩道は快適だった。秋には紅葉がきれいだろうと想像した。
- 龍泉洞を散策した後だと、長い距離に感じますので、山間部の神社の本宮まで行く時の様に、チラッと休憩所や、足湯などで楽しませながら散策できるようにしたら良いかと思います。
- 心地よい溪谷沿いの道でしたが、歩く人が少なく残念でした。途中域を体験する観光ができるのでしょうか。
- 龍泉洞から龍泉洞温泉ホテルまでは、川沿いの遊歩道が整備され



て心地よい空間となっているが、うれいら商店街まで歩く人はあまりいないだろう。

●川辺を歩くのは、空気もよく、気持ちよかった。

●龍泉洞からの川沿いの道を活用するのは良いと思った。でも足元が滑りやすくて歩きづらいのと、途中の赤い橋が景観上とても邪魔です。

●川沿いの道は歩いて気分が良いが、途中に立ち寄る施設があると良い。岩泉線の廃止で、観光客は岩泉に立ち寄る意味合いが薄れてしまっている。龍泉洞と岩泉の市街地を一体に観光地としていくことが重要と思う。

●龍泉洞側の入り口に案内看板も無く、何処にたどり着くのかも判らないため観光客は誰も使っていない様子。実際に龍泉洞の駐車場に車を止めた人は、下ってしまうと戻る手段が無いため活用出来ていない。もし活用するにしても途中県道に出てしまう下半分は遊歩道の整備が必要。溪流沿いの景観はとても良いので何らかに活用する方法を考えたい。下りだけのレンタサイクルとか？観光客を商店街に誘導する良い動線にはなり得る。(来て欲しいならばですが)

●川沿いの遊歩道が素敵なので、もうちょっと整備してほしい

●遊歩道や純木家具までの川沿いの道は歩いて楽しかった

### ③ うれいら商店街

●とても文化の薫り高い商店街で驚きました。豪壮な酒蔵、モダンな木造洋風建築、昔ながらのお菓子屋、蔵を転用したおしゃれなショップなど多様性が魅力でした。閉じたお店も多く商業としては厳しい感じですが、あつけら館のような新たな交流活動に期待したいです(無人店舗で買った山盛りのブルーベリーがとっても美味!)

●小さな商店街だが、横屋手しごとや、カフェ・カンティーナなど個性的な店があって、なかなか魅力的。

●カンティーナの空間の質の高さに驚いた。商店街も人通りは少ないのにきちんと整備されており、住民の美意識が高いのだと思った。

●空き店舗が意外に少ない。通りを歩く人はまばらだが、店の中に入ると次々と近所らしき客が訪れた。中松屋の水まんじゅうは、中が栗たつぷりの贅沢な栗餡だったので、嬉しかった。

●古い木造屋敷があるかと思えば、とびっくりするほどモダンな蔵があったりして。新旧のギャップが楽しかった

●歴史のある商店が残っている。もう少し飲食店があると、観光客がランチで立ち寄るなど、活気が出てくるのではないかな。

●国道(バイパス?)から少し脇に残るひっそりとした昔の街並み。実際に中に入ってみると見所や物産も多く、存在をもっとアピールしたい場所。

●一見寂れているようだが、歩くと多彩な店舗や酒蔵、洋館があり、楽しい町並みが形成されている。

●道幅が広く、古い町並みを楽しめた。もう少しはいれるお店があるといいな。

●バイパスが通ることで、消費の場が商店街以外になってしまっている。歴史ある商店街で蔵など、そのイメージを残そうとしている店主たちの思いが感じられた。昭和のなつかしさを感じられる街としての売り出してはどうか。おしゃれな雑貨店とカフェ、お菓子屋、パンなど観光客にとって魅力のある店があることを観光客にアピールしたらどうか

●外部の人をまったく寄せ付けない商店街の構造。新道が付けら



れて以来、表の国道 455 号線を通る車は町の中心地区の存在に気づかない事が多いのでは？店の看板も整備されておらず外部の人は何の店だか判らない商店も散見される。一方で何軒かの商店は今風の出店がされていて驚き。人の出入りのある商店とそうでない商店とここでも格差が存在。話を聞いてみると町の人々は商店街の活性化を望んでいるのは確かです。

●完全に休みのなのではないかと思ってしまいました。やっているところが所々なので、賑わい感が薄れ、さびれた感じになります。

●かつての中心性を感じさせる商店街。焦点の屋号が面白い。光る店はいろいろあると感じた。



### 3. 安家地区 (2016年の台風による水害被災地区)

#### ① 安家地区の印象など

●のどかで人が温かい。安家きゅうりのような伝統野菜や天然の茸、山菜が豊富で、燃料として薪が健在だった。里山の暮らしが残っているのは、都市市民の憧れである。川沿いの道は、外来植物ばかりで、山奥なのに自然が豊かという印象を受けなかった。

●事前に想像したよりもはるかに小さい集落でした（水害で多くの家屋が失われたため）。都市から遠く孤立した集落ですが、農林業で生活が成り立っているようにも見えませんでした。現状では、かむら旅館とGSが唯一元気な存在に思えました。

●川自体に水害の傷跡が多く残って痛々しいが、お話を伺うと、以前は川との関係が近く、川沿いに個々の生活の領域がにじみ出すようにあったのではないかと思います。河川の整備や道路の移動により、それらがなくなると生活のゆとりがなくなるように思う。

●災害の傷跡がなければ、山の中に、こつ然と開けた桃源郷のような里。川と生活の場が近く、堤防もなかったところが河川災害を受けたのが残念。今後、どこにでもあるような河川整備により、川と生活の場が離れてしまうことがないように願う。

●もともと過疎化した地帯が台風によってさらに疲弊してしまっている。土日は公共交通がなく、お年寄りや子どもたちは地区からでることができない。病院も高齢者施設もない。そういったところでも人々が知恵を出しあい暮らしを営んでいることに驚くが、若者たちは今後どうしていくのかと思う。護岸工事によって自然の景観がなくなってしまうのも残念。計画中の道路は通行量にたしてオーバースペックな気がする。

●緩やかな川のほとりの素敵な風景の集落だったのだらうと思います。

●野菜が美味しく、自然と共に生活を送っているというイメージをもった。

●岩泉から更に奥に入った集落だが、一昨年の台風被害の爪痕が今も残っている。都会生活しか経験が無いと、ここでの暮らしはなかなか想像しにくい。

●岩泉からこれほど離れているとは思わなかった。久慈が近いというのには驚いた。

●ずいぶん奥地まで来たという印象（自然がいっぱい）

●平成25年の豪雨災害の爪痕がまだ生々しく、心が傷んだ

●古い時刻表を見ると、久慈や岩泉から国鉄バスが走っていて、奥羽山地の一つの中心地であったことを感じさせる。



## ② 安家地区が10年後20年後どのような地区になっていたらよいですか

- 若者とお年寄りができる地場産業を興す。(現在しいたけ工場があるようですが)地域のひとたちが何もできないと思っている意識の刺激や改革  
若者が集団でやってくるような組織への誘致。大学の農学部や畜産学部ができ、学生がインターシップとして応援しつつ働く、卒業後はそのまま住んでもらう  
鳶屋やベネッセ、ソフトバンク、楽天などのIT系企業の誘致、東京で就職させ移住したい人を募る。「半農半芸」ではなく「半農半IT」大手企業の保証があれば子育ての期間だけ以上したい人が出てくるかも。
- 高齢者が、ある程度の自活のための作業をしながら安穩に暮らし、それより若い層が、高齢者をサポートしながら、ローコストで暮らせるようと、持続的な生活を送る事ができるのではないかな。
- 若い世代が戻らないとすると、客観的には地区の維持が難しいように思います。一定の生活機能を確保するには、岩泉町の中心部に施設を集約し、公共バスで結ぶのが現実的でしょうか(山形県小国町のような選択)。その上で空き家を活用して若い希望者が移住してきて、地元の人と共存できるような地区であってほしいです。
- 小さくて良いので、集まって楽しんで住んでいる集落であってほしいです。其々の個人が持っている土地があるでしょうが。
- 田舎暮らしを楽しみたい人が移住できるような地区になるといいと思う。
- 若い人が生き生きと暮らしている地区であってほしい。
- 都会の子供が夏休みを楽しみ、故郷を感じるような地区になってほしい。
- 林業で食べられる地区。里山の暮らしが残る地区。
- 洪水の危険のない水と緑の豊かな地区。
- 水害からの復興と景観がうまく融合した地区になってほしい
- 自然豊かなところ

## ③ あなたが安家地区に住むとしたら、どういう条件が整えば可能ですか？

- 第一に交通。小さな個体群が島になって点在するようになると種の絶滅の危険が高まるとの生物モデルではないが、小さな集落各々を結びつける繋がりがあればと思う。
- 中心都市(久慈市)までの公共交通機関があり、年金(あるいは遠隔地勤務での収入)程度で生活費が賄えれば、ということでしょうか。
- 運転ができないので、町まで巡回バス。近所づきあいを始め、仲間のネットワーク。
- 車を運転しないので、生活の足を確保できていること。仕事はあるの?病院は?
- 洪水に対する対策、岩泉だけではなく久慈との公共交通の整備。
- 盛岡からの交通アクセス
- 仕事。文化的な刺激など。また、東京までの交通費が安かったらいい。
- 生活できるだけの収入があり、仕事以外の時間が十分確保できることが必要。あとは車があれば何とかかなりそう。
- ここに居ながら、都会とつながる仕事。自活生活を送るためのノウハウ。
- 多少の収入が得られる仕事があること、仲間がいること、村八分にならないこと
- 残念ながら生活の基盤を地区に持たない者が住むことは難しいと感ずる
- 産業(=収入)があると、住めるかもしれない

## ④ あなたがよそ者として応援するとしたら、どういう方法で応援しますか

- 地場産業や観光が潤うよい東京で告知や応援、ファンクラブをつくる。仲間をつれて訪問する
- 観光客として訪問 かむら旅館への宿泊。安家地区でのクラウドファンディングによる応援
- 安家地区の存在と現状を多くの人に伝えること。例えば、龍泉洞よりも長い安家洞の存在を友人・知人に教える、今回訪問の報告会を開催する、などでしょうか。
- 今回感じた印象を積極的に情報発信するとともに、今後も見守りを続けたい
- 安家地区のことを、友人に話す。

●安家洞のPR

●産物の販売支援。一時的に人手の必要な作業の支援。

●地域の産物の購入。

●良い集落である事を紹介する。ふるさと納税で、知ってもらう。

●安家洞&ほたる&星空&自然と滋味あふれる食と体験が出来るエリア。安家洞の深部へ探検と周辺の山へトレッキングしにいてみたい。

●よそ者は地元の人とは違った視点で街に関われることが重要。よそ者が街に関わることで、街に多様性が生まれ、街はより魅力的になる。まずはよそ者に街に来てもらうことが必要であり、今回の企画はそのためのもの。

●安家に人が行くように PR (岩手県庁に出向経験を有する経産省OBに聞いたら、釣りに行ったとのこと)。安家の商品を購入する。

⑤ 台風の被害にあった安家地区について、提案などがあれば

●まずは、被災した方々、仮設住宅入居者の生活の場を回復すること（住宅再建）が最優先でしょうが、将来的には、空き家を活用して若い希望者の移住を促すような「山村らしい」魅力を保つことが必要でしょうから、道路拡幅や堤防護岸の整備は、防災性の向上を考慮しつつも慎重に方法を選んだ方がいいと思います。

●被災者住宅が画一的でそのエリアの生活スタイルにあったものにしたい。薪でエネルギーを補う、共同の薪割作業場も考えたい、

コミュニティスペースも同様、もともとある地域のつながりを大切にする。横文字のコミュニティがあらわす世界ではなく、おくゆかしく、気づかいがもともとある東北の方々の思いを大切に。イベントや会話がなくても、おばあさんたちは、手仕事や料理といった共同の作業や仕事を通して緩やかにつながる文化があるようだ。北欧のコレクティブハウスの工房につながるような空間が望まれる。

また都会とは違い夏と冬の生活の違いが大きく、季節感の配慮も大切、冬は囲炉裏を囲んで「おちゃっこ」できるように

●すでにそうなってきていると思いますが、診療や介護、共同作業等、何かにつけて住民が集まり、立ち寄れる施設を本格的に整備すると、コミュニティの維持につながるのではないかと。むかしの豪邸の跡をうまく利用できないか。

●復興事業を活用して安家地区のまちづくりがうまく進められると良いが、そのためには地区の将来像を地元と行政とが共有することが必要。また、地区に1軒しかないガソリンスタンドは公共物であり、民間での存続が困難なら町が整備すべき。

●仮設住宅、復興住宅においても、可能な限り、薪の利用等、これまでの生活と変わらない生活ができればと願う。薪の利用により山林に人手が入ることは、山を守るためにも必要であろう。補償として払われる費用が確実に安家の再興、再生のために使われてほしい。

●本当であれば、景観を配慮した計画としてほしい所ですが、実際の防災の対応にはザ・土木工事となっているようで。もてはやされたランドスケープがなんだか飾りだったような気がしてきました。結局何かあったら、ランドスケープと土木が癒合し防災の検知も含んだ計画はないことに驚きました。

●洪水時に越流しないよう下流に水を流すことができる高さの堤防を設置してはどうか。



- 対岸と同レベルまで道路や堤防の高さを合わせるの最低限の補修だと思います。
- 堤防方式ではない防災護岸が無いものだろうか？あれでは景観が台無しで以前の親水性が失われている。
- 安家支所周辺の整備。できるだけ自然環境・自然景観に配慮した河川整備
- 堤防かさ上げと道路計画を含む復興計画を見ていないが、いずれも必要だと思う。釣り人が楽しめ、いろんな川遊びができるような空間があると、旅館や商店の利用者が増えるのではないかと。例えば、オートキャンプ場など。

#### 4. 浄土ヶ浜や龍泉洞など、観光と地方都市の関係についてどう思いますか

- 震災後、割りと早いタイミングで宮古を訪問した時に、居住地区よりも早くに被災した観光船を含めた浄土ヶ浜の再整備がきちんと終わっていました。宮古市の観光地としての「浄土ヶ浜」にかける思いを感じました。宮古駅と市街地と浄土ヶ浜の位置関係が良く、観光客が市街に入り込む構造になっています。一方の龍泉洞ですが、町の中心部に外部からの人の受け皿が無いので、観光客は直接龍泉洞に入ってまた出て行ってしまいます。町中心と龍泉洞の距離感を逆手に取った何らかの仕掛けがあればいいのですが。3セクが経営している道の駅が二つありますが龍泉洞に次いで人が集まっています。かつて鉾山で賑わっていた林業、農業の町と考えれば観光がメインとならないのも頷けます。
- 観光施設には一定の訪問者が来ているようですが、一過性で町との関係が希薄なように見えました。観光施設の魅力を一段と深める体験型資料館や、町と観光施設を結ぶ散策ルート（途中の魅力ポイントも整備し、片道はバスで駐車場まで送迎）などが有効でしょうか。もちろん、町の側の魅力向上と情報発信が必須ですが。
- 観光客は公共交通機関より自家用車やバスで訪れるのが多数。点と点を移動する形なので、街に人を呼び込むには車移動を受け入れる、道の駅等の中継施設が必要。そこから、徒歩等でまちに出られるようになると面白い。
- 人口減少社会で地方都市が生き残るには観光は一つの有効な手段だが、観光地が街から離れていると観光客が街を素通りしたり、街の人が必ずしも観光客を歓迎していないなどのミスマッチも多い。街にとっても観光客にとってもメリットがある、新しい観光のあり方について考える必要があると思う。
- 三陸復興国立公園、ジオパークの自然資源を活かして観光地のネットワークを図り、観光客を取り込むことが必要ではないか。復興整備された鉄道網も利用者が少ないと岩泉線のように廃止に至る危惧もあり、地元に加え観光客による利用を図る必要がある。ある程度の観光客の誘致が地域の活性化にもつながるのではないかと。
- 観光地個々が点になっている、観光地同士を連動させて、「まちおこし」を行う。そのためにはリーズナブルな交通アクセス手段を施策として考える。  
滞在型、交流型を考える、人と交流することによってその地への理解と思いが深まる＝ファンになる。  
景勝地だけではなく、産業や食材、農産品など観光資源になるその切り口を発掘し、観光だけではなく、産業全体への経済効果と働き場所になることを狙う。おばさんも見方によっては観光資源、石巻アートの食堂ではおばさんが活躍できる場があった。多様な住民が連携して観光に携われる場を提供したい。  
岩泉町では、観光より復興や福祉に予算を優先に配分するというのは、やむを得ない事情ではあるが、今後の将来のために観光予算を作り出すことが必要。クラウドファンディングを利用するなど。
- 遠くても行きたいと思う処です。訪ねてもらって風景をどんどん（ポスターなど）出して行くのも良いかと思えます。かつて巾着田は、沿線の良い風景をお客様から募ったものからポスターになり、ヒットしたと聞きました。地の利は大事なのだと思いました。湾岸部に便のいい所から、入るルートはあるのでしょうか？あればいいなあと思います。
- 観光地の知名度を上げて、来訪者の数を多くすることが、地方都市の活性化につながると思う
- 近隣や県内の人たちが自家用車以外の手段で訪れやすいこと、地域の物産の直売所や食事、宿泊等でお金を落とす場所があればと思う。
- やはり、車を中心とした交通網の整備が必須ではあるが、人口密度の薄い地域での優先度は高くない。オート・キャンプ場の整備など、滞在型の観光も視野に入れるべきでは？
- 観光は地域活性化には不可欠。滞在型の観光、スローライフができる地域

## 5. その他岩泉の方々へのメッセージ

●私たちの訪問を温かく迎えてくださり、とても感謝しています。お陰様で心底から癒されるとも充実した2日間となりました。災害復興の前提となる地域の将来像には必ずしも明るいものが見えていないかもしれませんが、皆様の地域への熱い想いにふれることができ頼もしく心強かったです。個人・家族が頑張ること、地区・集落で協力してできること、行政が対応すべきこと、それぞれがつながり合って実を結ぶことを心から願っております。

●人は財産だとも思います。ただ会わないと人は知ることができません。接点を増やすことが必要かと思えます。また、現代の中では手作り、好物に触れる機会がかなり少ない状況に見えます。好物という物を知らずにいることも多くなりました。(安くて手に入りやすい物が主になっている感じが) あくまで個人の感想ですが。

こちらも接点を増やしてほしいです。自分たちの良いものを胸を張って紹介してください。

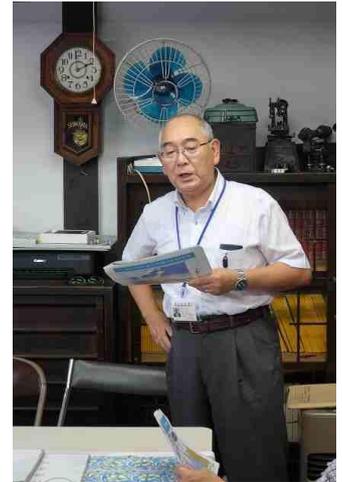
●岩泉は山の中の小さな町ですが、美味しい食べ物、美しい景観やうれいら商店街の個性なお店、そして時間がゆったりと流れていて、都会にはない豊かさを感じます。これからの岩泉にとって観光は重要なテーマだと思いますが、龍泉洞に来る観光客ではなく、うれいら商店街を楽しんだり、かむら旅館に泊まってゆったりとした時間を過ごしたりして何度も岩泉を訪れる、岩泉のファンをつくる新しいタイプの観光が相応しい気がします。そのためには、地元の人にとっても来街者にとっても魅力的な街することが大切であり、地元の人が主体となりつつ、よそ者をうまく使うことで実現できるのだと思います。

●岩泉でいただいたお昼ごはんはとても手が込んでおりとても美味しかった。家具のお話や手仕事を大事にしておられる方々から、丁寧な暮らししている様子が伝わってきた。防災の方のお話は、聞いたことのない体験談に、興味深く聞いた。どの方も温かくゆっくり暮らしておられる中、東京からあわただしく訪れ、何もできずにあわただしく帰ることが申し訳ないように思った。

●短角牛など地元の特産品でおもてなしを頂き大変ありがとうございました。暑い中、冷たいうどんはピリ辛でおかわりをして美味しくいただきました。災害からの復旧の最中ではありますが、復興して再度お伺いできる日を楽しみにしております。

●地方にお住まいの方々には、その風土に根付いた習慣が染み付いています。それはとても合理的で尊いものであります。あつけら館でいただいた豊かな昼食がそれを物語っております。どうぞ、観光にくる他者に迎合することなく、まずはご自分たちのライフスタイルの素晴らしさを自覚され、毎日楽しくお過ごしください。人は、そこに住んでいる人が幸せを実感している場所に自然に集まってくるものだと思います。

●お昼にいただいたけんちゃん汁は、食の匠の方が作ってくださったと聞きました。とてもおいしかったです。心暖かなおもてなしをありがとうございました。嘉村旅館さん、短角牛の佐々木さん素晴らしい料理をありがたございました。岩泉町は「食」が豊かなところなのだと思います。



てどの蔵やあつけらかんを提供なさっている工藤りせさんの行動には感激です。こういう方がいて、まちがいきいきとするのだと思います。今回は小松さんをはじめ、女性の方々への地域への思いを感じました。

●かむら旅館、あつけら館での心のこもった食事、ありがとうございました。教えていただいたシソジュース、自宅で早速作って味わいました。カンティーナ館、てどの蔵、あつけら館、小泉家住宅等は、国内でも一流の施設である。また、岩泉乳業、八重桜蔵元泉金酒造、純木家具、栗菓子中松屋等、県を越え有名な地元企業があるので、郷土の誇り、岩泉だからできることに自信と誇りを持ち続けていただきたい。

●男性よりも女性が表に立って動いていたことが印象的だった。女性に対する力づけをますますしてほしい。純木家具…従来は価値が低かった広葉樹の、しかも県産の木を用いることにより、林業と山林の維持に役立っていることを素晴らしいと思う。

●ホテル龍泉洞愛山のジオラマは素晴らしかった。うれいら商店街を知ってもらうのによいツールになると思うので、現在のまちの魅力のPRにもっと活用したい。

●たくさんの温かいおもてなし、ありがとうございました。

●嘉村旅館の皆様、うれいら商店街の皆様、岩泉の食や空気を堪能させていただき、ありがとうございました。できることはわずかですが、何らかの貢献をしたいと思っております。



## 6. 今回の企画について（感想など）

●津波、台風で被災地の復興の状況について現地を見て、地元の方のお話をお聞きすることができて非常に有意義でした。自然災害と常に向き合って生活していかなければならないので、「減災」という考え方が重要であると思いました。

●高齢化等の問題が進む中、追い討ちをかけるように被災する深刻さがよくわかりました。また、その状態の中で、いかに生活を持続させていか、産業やコミュニティのありかた等、幅広く考えさせられました。お忙しい中、お話をいただいた地元の方々、企画していただいた栗原さん、原さん。ありがとうございました。

●非常に奥の深い企画でした。宮古市の復興だけでもなかなか訪問しにくいのに、さらに岩泉町、そのうえ安家地区に泊まるという貴重な経験でした。これら地区の災害復興は地域住民の意向を踏まえたものであるべきでしょうが、それが地域の将来を見通して切り開くものとなることを願っております。私たちのために厚いもてなしをしてくださった皆さんに深く感謝いたします。

●栗原さん、原さんのご案内により、一人では行きにくい場所に行くことができ、多くの貴重な体験をすることができた。特に過疎化の上に台風という災難にもかかわらず、温かくもてなしてくれたかむら旅館の方には頭の下がる思いだ。いろいろと深く考えさせられた。

●コーディネーターの考えられている問題について、深く考えさせられた。負のスパイラルを止めることは難しいが、地道な努力の継続が必要と考える

●地域の交通は便が少なく大変ですので、念入りに企画していただいて本当にありがとうございました。ゆっくり見られる時間も配慮されていて有りがたい限りでした。

●この企画がなければ、岩泉町を訪問することはなかった。地元の食材を使った食事に岩泉町を堪能しました。

●企画してくださった原さんが、よそ者にも関わらず、地域の方からとても信頼されていることに敬服する。

●盛りだくさんで楽しめました



●最近の災害において土木はもしかしておざなりになっているように感じます。景観を大事にしつつ行う土木は、スーパー堤防走っていますが、災害で緊急となると。本当に土木のスタンダードなものになってしまうようですね。可能であれば、3パターン位用意しておいて、①景観も加味した計画、②スタンダードな土木計画③安全を更に見た土木計画の概算を持っておいて、何かあったらどのパターンで予算を組むというようなことはどうでしょうか？（やっていたらすみません）

### ◎コーディネーターより

●たまたま仕事で安家に行き、冬の岩泉町や安家の山の生活に触れ、東京で失われつつあるその人々の暮らしぶりや生活の知恵、気さくによそ者にも声をかけてくれる暖かさにはれ込んでしまいました。若者たちによる楽しいイベントもたくさん企画・開催されています。たびたび訪れるうちに、観光地を含め、地域の資源や魅力があるが生かし切れていない、人口減少、高齢化、さらに点在する集落、10年後20年後が見えないといった閉鎖感などの地域の課題にも触れ、何がお役に立たないかと思ううちに「おせっかいお婆さん」と化してしまいました。今回も私と同様、岩泉の魅力を知っていただき、応援していただけるよう、tekutekuの仲間と一緒に訪れたいと企画させていただきました。岩泉に限らずこのような課題は全国にあり、これからの日本の課題と思っています。地域に住まわれる方お話しができる時間が少なかったのが残念です。

●岩手県は非常に広くその大半が山で、沿岸部や山間に街が点在しています。その岩手らしさを体験してもらう趣旨でまち歩きを企画しました。特に岩泉は、原さんのネットワークによる地元の方々のおかげで、とても充実した内容になったと思います。これを機に、また岩手を訪れてみてください。

●栗原さん、原さんが活躍されていたからこそ、実現できた企画だと思う。岩泉、安家とも中々訪問はできない。日本中に、同様な課題を有する地域があるのだろうと、改めて認識した。広島・岡山豪雨でも芸備線や福塩線沿線は報道されていないが、同じような被害があったことが想像される。

岩泉町から委嘱された地域物産のデザイナーと知り合いになったので、原さんを紹介しつつ、岩泉の物産をどう売っていくかを考えてみたい。



以上